

『より大きな喜び』(ルカの福音書 15 章 1-7 節) 2023.8.6.

<はじめに> いつもいるものが見つからない、ということがあるでしょうか。ならば、それを探して見つけ出した時の安堵と喜びも分かるでしょう。イエスが語られた短い物語にも描かれています。

I 羊が 100 匹

①自分のもの(4)

羊を持っている人は、毎日羊を野に連れ出し、養い育てます。自分の群が全部が揃っているかを折々に確認するでしょう。数が合わないなら、行方不明になったはずですが、自分のものを見失ったら、捜し歩きます。持ち主が失くしたものを捜すのはどうしてですか。

②かわりはいない(4)

見失ったのは 100 匹のうちの 1 匹です。99 匹がいるからよし、とできるでしょうか。数字は抽象化させます。部外者には羊はどれも一緒に見えますが、飼い主はそれぞれの個性・特徴を把握しています。いなくなった 1 匹のかわりはどこにもいません。

③たとえられているもの

これはたとえ話です。物語に例えられた真意があります。聖書では、羊を人、飼い主を神にしばしば例えています(詩篇 23 篇、ヨハネ 10 章など)。そうすると、このたとえ話から、神は人をどう見ているでしょう。また、人が落ち着いていられるのはどんなところでしょう。

II いなくなった 1 匹

①はぐれた羊(4)

羊はどうして群れと羊飼いから離れてしまったのでしょうか。はぐれてしまったことに気付いたのはどの辺りでしょう。羊と羊飼いの距離はどう変化しましたか。群れに戻るためにその羊は何ができるでしょう。

②見つかるまで捜す(4)

羊飼いははぐれた 1 匹に気付き、その名を呼びますが現れません。そこで、彼は捜し歩きに出掛けます。その 1 匹を見つけるまであきらめません。この羊飼いの姿勢は、神と共通です。神の呼び掛けに答えがないその人を捜すため、イエスをこの世に送られました。

③見つけたら(5-6)

ようやく羊飼いははぐれた 1 匹を見つけ出します。喜んで羊を肩に担いで連れ帰り、友人や近所の人たちと、羊を取り戻した喜びを分かち合います。見つけた喜びを大勢で共に喜ぶ情景を、イエスは天にある大きな喜び(7)だと言われます。

III 天にある喜び

①たとえ話の背景(1-3)

この話をイエスは誰にされたでしょう。「そこで」(3)から、1-2 節が語る発端であったと分かります。パリサイ人・律法学者はこの文句を何度も言っています。罪人を受け入れる者その仲間と同等だ、と彼らは主張し、イエスを軽蔑していました。

②天にある喜び(7)

それは一人の罪人が悔い改めることで沸き起こります。悔い改める必要のない 99 人の正しい人は喜ばしい存在ですが、そこにもう一人加わることに神様の関心はより向けられています。罪を犯さないことは幸いですが、罪から離れて立ち返ることはもっと幸いです。

③一緒に喜んでください(6)

悔い改める必要のない人とは、どんな人でしょう。その人には、罪を赦され、神との関係を結び直した喜びが分かるでしょうか。この天にある喜びを分かち合えるのが教会です。皆、神に見出され、立ち返った経験者の集まりだからです。

<おわりに> 教会はきよい人の集まりだと思われがちですが、神に立ち返った元罪人の集まりです。喜びと安らぎへと導かれる羊飼いなる神様の声を聞き、道を外れたときにも連れ戻してくださるイエスを呼べる関係を日々刻々保つとき、この喜びが湧き上がります。(H.M.)